

「白いも」の復活にかける 島人たちの挑戦

特定非営利活動法人 GOODWILL 事務局

にいほま大島 七福芋本舗 しちふく芋生産責任者 秋月 純一 (新居浜市)



◆水軍の島「大島」

新居浜市で唯一の離島である大島は、新居浜市の東部に位置する黒島港より市営フェリーで15分、燧灘の沖合約1.5kmに浮かぶ周囲約10km、人口約280人の小さな島です。

この島は、伊予水軍の初代統領であった村上義弘生誕の地とも伝えられ、軍船を隠すための「船かくし」や「本丸跡」、「防塞跡」、「棧橋跡」など、水軍の拠点であったことを偲ばせる遺跡が数多く残っており、昨年、本屋大賞を受賞した和田竜による長編歴史小説「村上海賊の娘」がベストセラーとなるなど、水軍ファンの間では、隠れた穴場スポットとして注目を浴びています。

また、毎年成人式の早朝に門松・注連縄などの正月飾りや紙幟に火をつけ、一年の無病息災を祈る市の無形文化財「とうどおくり」や島の史跡を巡るサイクリングツアーが開催されるなど、どこにも負けない風光明媚で人情と歴史口マンに溢れる島です。

新居大島 市内の山から



正月飾りや紙幟に火をつけ、一年の無病息災を祈る市の無形文化財「とうどおくり」や島の史跡を巡るサイクリングツアーが開催されるなど、どこにも負けない風光明媚で人情と歴史口マンに溢れる島です。

◆白いもによる島再生への挑戦

多くの資源を有する大島ではありますが、多分に漏れず少子高齢化、過疎化の波が押し寄せ、主要産業である農・漁業の衰退が進む中、現在、島の活性化の一つとして、古くから大島で栽培されていた白いもに着目、約10年前から栽培と加工・

販売を通じた島おこしに取り組んでいます。島の特産品である白いもは、農業従事者の高齢化や地理的条件などより、その生産は消滅寸前の危機となっていました。

このため、農・漁業とも衰退していく島を憂う地元有志によりNPO法人「GOOD WILL」を立ち上げ、希少な白いもを活用した島再生の取り組みとして、「大島白いも特区」(平成16年12月)の認定を受けました。認定により、農業生産者以外の法人の農業経営参入が認められ、「GOOD WILL」が主体となった栽培から特産品開発までの体制により、白いもを活用した島活性化の取り組みに弾みをつけることができました。

◆白いもづくりを通じた大島への人の呼び込み

大島で生産される白いもは、糖度が非常に高くもっちりとした食感があり、また、他の土地に移植するとうまく育たず、収穫量が極めて少ないことから、「まぼろしの芋」とも呼ばれています。我々は、この希少価値のある大島の白いもを「七福芋」と命名して内外に広くPRし、ブランド化に積極的に取り組んでいます。

まず、取り組みの一つとして「七福芋」の栽培を通じた大島への人の呼び込みと島民との交流促進を図ることとしました。「七福芋」は、毎年6月頃から苗を定植、11月に収穫しますが、栽培と



4kg 箱荷姿



特区認定「どぶろく」 などの製造を通じた 地域おこし、交流拡大

オーナーによる収穫祭



その特産品づくりに参加できるオーナーを毎年募集しています。オーナーには、島民を交えた農業体験や自ら育てた「七福芋」のおいしさを実感して頂き好評を博しており、島民との交流機会が増え、過疎の島に徐々にではあります、活気が取り戻されつつあることを実感しているところ です。

◆市民による白いもを活用した島の 活性化、特産品の開発・販売

また、「七福芋」に付加価値をつけるため加工品の開発にも取り組み、特産品として七福芋焼酎「あんぶん」を開発しました。

「あんぶん」は、地元愛媛にある「桜うづまき酒造」さんに「七福芋」を持込み、製造してもらっています。「七福芋」が持つ優しくて濃い甘みを程よく引き出した本格芋焼酎で、芋独特のクセが少なく、華やかなお芋の香りが口いっぱいになり、芋焼酎であることを忘れてしまうような口当たりのおいしい焼酎です。

また、次世代を担う高校生の事業への参画にも積極的に取り組んでいます。

「七福芋」を使って何か作れないかとの地元高校生の発案から、新居浜商業高校が地域貢献のために設立した模擬会社「NC☆SHOP」と別子館本舗との

共同により、白いもと生キャラメルを包み込んだ大福「キヤラもっち」を開発しました。



七福芋ブランド菓子

商品名、キャラクターなど高校生ならではの発想で仕上げた逸品で、「全国商い甲子園」(2010年8月)で全国1位に輝き、現在、「いにはま大島七福芋ブランド推進協議会」の認定を受け、数多くの店舗で販売されるなど、地元自慢のお土産として観光客から非常に喜ばれています。

更に大島を「白いもを中心としたテーマパーク」として再生し、白いも文化を後世に伝えていく「新居大島(白いもアイランド)構想」の提案が「わがまちビジネスアイデア・コンテスト2010全国大会」で最高賞を受賞し、新聞や雑誌などで大きく紹介されました。

このように、次世代を担う高校生が中心となって、大島活性化の夢の実現に向かって突き進んでいく姿は非常に頼もしく、今後も、若い力を最大限に活かした協働事業を取り入れていきたいと考えています。

◆これからの白いもを活用した島づくり

現在、栽培に参加するオーナー制や島

民が生産した白いもの買い付けなどにより、生産量をなんとか維持しているところですが、生産者の高齢化など、小さな大島での芋づくりへの苦労や課題は山積みとなっています。しかし大島だからこそ生産できる「七福芋」を高校生など力を活かしながら末永く愛される大島の特産品となるよう、島民とともにこれから生産から販売まで頑張っていきたいと考えています。

七福芋焼酎「あんぶん」は、飲んだことはなくても名前を知っている方が多くなるなど、知名度も徐々に上がってきています。少量生産のため高価なものとして取り扱われていますが、新居浜の代表のお土産として欠かすことのできない逸品ですので、高い糖度を活かした「七福芋」を使ったスイーツとともに一緒にぜひお買い求め下さい。

今後は、大島の地域資源との連携を図りながら、日差しをいっぱい受けた島が育む「七福芋」を、島民が生きがいを持って生産し、そして都会から大島に集まった人々が「おらが島の焼酎」を飲みながら談笑する、そんな元気あふれる大島を目指して引き

続き活動していきたいと考えています。



七福芋焼酎「あんぶん」